

創作ダンスによる竹久夢二の伝承～ダンスとアートの融合～

○小澤尚子・藤田依久子・宮本彩・前川真姫・井伊藤悠希・三浦孝仁・井大日方重利

(環太平洋大学 次世代教育学部 教育経営学科)

目的

本研究では、竹久夢二の絵画「藤」から着想を得て制作した創作ダンス作品「おもいびと一夢二、その抒情―」の創作過程を回顧録として残すとともに、絵画を基にダンスを創作するプロセスを明らかにしていくこととする。加えて、観客の視点からも創作ダンスによる伝承について検討していくこととする。

方法

調査方法①：先行研究¹⁾が示した舞踊創作の要素について取り上げ、著者の資料を振り返り創作過程と照合しながら回顧録を残した。

調査方法②：作品鑑賞者に Google フォームへの回答を求めた。

調査対象者：授業「ダンス I」受講者 219 名

調査期間：2022 年 5 月～2022 年 6 月

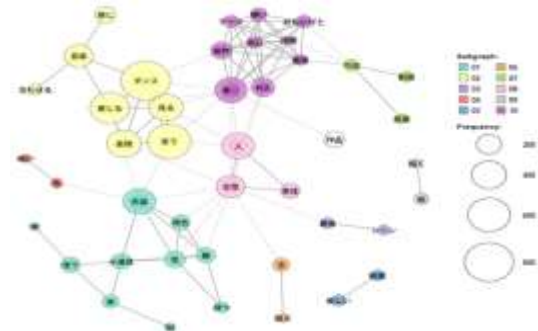
質問紙内容：創作ダンス作品を鑑賞してどのように感じたか、400 字以上で自由記述回答。

結果・考察

作品の創作過程について振り返ると、概ね次のような作業を経て完成させている（テーマ・題材選定、調べ学習（題材研究）、主タイトル決定、作品構成の作成、振り付け、作品解説の作成、楽曲選定・制作、衣装デザイン・制作、小道具等の準備、照明プラン）。

夢二式美人を体現するべく、注力した点が「曲線美」で、空間に螺旋や八の字を描くような曲線的な動きのフレーズを多く取り入れた。一方、男性は、女性の美しさを引き立たせる対比的なものにした。

鑑賞者の感想記述（図 1）をみると、大きなまとまりの一つは「ダンス」を主として「見る」「思う」「感じる」「表現」「音楽」と繋がり、「音楽」は創作ダンス全体の印象に大きく影響することが示唆された。



【図 1】感想文の記述内容における共起ネットワーク

今回、検証対象となった大学生のうち、竹久夢二を認知していた者は 1 割以下と低かったが、創作ダンスの鑑賞をきっかけにその存在を知り、包装紙など身近なものの中に彼の作品があることに気づいたという意見もあった。作品を踊り継いでいくことが、間接的に竹久夢二を語り継いでいくことにもつながるといえる。このことを踏まえて考えても、やはり振り付けをただ伝承していただくだけでは不十分であり、踊り手による竹久夢二に対する敬意と絵画「藤」が描かれた背景への理解など、テーマ・題材に対する学びが必要不可欠といえる。

参考文献

¹⁾ 三輪亜希子ほか（2021）『創作プロセスに注目した「舞踊創作デザインシート」の作成と有用性の検証』、大学体育スポーツ学研究